



南町小だより

練馬区立南町小学校

令和5年 1月10日

校長 星美登里

つよく かしこく あたたかく
～ ありがとうを とどけます ～



校庭のウメの花が例年より2週間ほど早く咲きました

みんなの子どもをみんなで育てる ～学校・家庭・地域の皆様とともに～

校長 星美登里

穏やかな温かさとともに、新春を迎えました。昨年は、開校70周年記念行事をはじめ、様々な教育活動を実施する中で、本校は保護者の皆様、地域の皆様に温かく支えられている学校だと深く感謝した年でした。心より御礼申し上げます。

昨年、2学期のまとめの時期のころ、70代の匿名の方から、お便りをいただきました。

「夕方、近くの横断歩道を渡ってきた小さな女の子と一緒に歩きました。『お帰りなさい』と声をかけましたら『こんにちは』と挨拶をしてくれ、しばらく一緒に歩いた後、女の子から『私にできること、何かありますか?』と聞かれて驚いたり、嬉しかったりでお葉書を書きました。」その方は、膝を痛めていてシルバーカーを押して少し足を引きずりながら歩いていたそうです。その日は、電車に乗って出かけた帰りで、乗り込んだ車両は座席に空きがなく、やっとの思いで他の車両まで移動し、座ることができたとのこと。その間、誰も声をかけてくださらず、少しさびしい気持ちだったので、女の子の言葉がよけいにありがたかったのだそうです。お便りの最後は、「大人に声をかけるのも勇気がいったでしょうにと感じました。学校一丸となつていろいろな取組をなさっている一つの表れなのでしょう。先生方、PTAの方々、毎日お世話さまでございます。取り急ぎお礼まで。」と結ばれていました。南町小の「小さな女の子」がお便りの主の方を気遣う様子が目に浮かぶようで、大変誇らしい気持ちになりました。このように子どもの気持ちに寄り添い、温かく見守りながら関わってくださる地域の方がいらっしゃることに、感謝の念でいっぱいです。

さらに、この出来事より少し前の登校時に、私もこんな光景を見ました。高学年の男の子が横断歩道を渡ろうとしたときに、乗用車が交差点に差し掛かり横断歩道の手前で止まりました。するとこの子は、この車の方に何度も頭を下げながら渡っていました。横断歩道に人が渡ろうとしているときに車が一時停止することは、法律上・安全上の観点からも当然のことであり、歩行者がお礼を言う義務はもちろんありません。でも、このように会釈をされたら、私ならとてもすがすがしい気持ちになり、一日を温かい気持ちで過ごせると思います。

この子どもたちのような温かい心のある行動は、学校での教育活動や指導だけで身に付くことではありません。日々の生活の様々な場面で、保護者や地域の皆様のお姿がそのまま子どもたちのお手本になっていること、地域の子どもたちに対して保護者や地域の皆様の温かいサポートがあるからこそ、子どもたちは素晴らしい行動ができるようになるのだと思います。まさに、地域社会の中で子どもは育つのです。

子どもたちは、一人一人がそれぞれのよさと可能性、課題を見せながら、まだ成長の途中にあります。先行きが不透明なこの時代において、南町の子どもたちを主役に、学校・家庭・地域でスクラムを組み、「みんなの子どもをみんなで育てていきたい」と決意を新たにしました。3学期はあっという間に過ぎていきます。気になること等がございましたら、ご遠慮なく学校までお知らせくださると幸いです。12月に保護者の皆様には「教育活動アンケート」により貴重なご意見をお寄せいただきました。ご多用のところご協力ありがとうございました。今後の教育活動の参考にさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。